

市報 くまがや マガジン

12
月号

●
●
No.27
2007
平成19年

特集

- 第2回子ども議会が
開催されました P2
- manifestoの取組状況
を公表します 4
- 文化功労者の表彰..... 6
- 人権特集 7
- 市政ワイド
12月3日～9日は「障害者週間」です ほか 8
- 市政情報
熊谷市公共施設自動予約システムを 10
リニューアルします ほか
- くらしの情報
催し・講習・募集・試験・スポーツ・相談 16
- いきいき元気 みんなの健康 21
- 文化施設情報 24
- フォトニュース 28
- 市報クイズ・おたよりパレット
- くまがや東西南北 30
- 夢追い人・フレッシュクッキング 32



「第6回 オ・ドーレなおざね」
11月3日に国道17号を歩行者天国にして「第6回オ・ドーレなおざね」が行われ、各チームが日頃の練習の成果を存分に披露しました。





演壇で質問をする

A 市でこれまで取組んできた温暖化防止対策は、電気やガス、自動車燃料等の削減、天然ガス自動車の導入、クールビズやウォームビズ、ノーカーデーの実施などです。そして、今年度は、「あついで！熊谷温暖化対策プロジェクト」と銘をつけて、太陽光発電システムを2か所の学校屋内運動場へ設置、全ての小学校に太陽光発電照明灯を設置、太陽光発電システムを設置する家庭に導入費用の一部を補助、天然ガス自動車6台を市役所に導入、市内の小学6年生全員が、家族といっしょに省エネ対策を実践する「キッズISO」などに取り組んでいます。

Q 熊谷市では今年、全国最高気温を記録しましたが、地球温暖化防止対策に何か取組んでいますか。



答弁を行う富岡市長

Q 市民が参加できる植樹イベントをいろいろな場所です定期的に開催しているのはどうですか。

A 昨年7月に、熊谷スポーツ文化公園に、「ふるさとの森づくり1万本の植樹イベント」が行われ、今年も「育樹祭」として、その手入れが、多くの皆さんの参加のもとに実施されました。緑をつくり育てることが大切さを、私たち一人ひとりが理解し、活動することは、大変意義あることと思います。植樹イベントは、その活動を長く続けるための組織づくりや、場所の選定等の課題はあるものの、確実に緑を増やすことができ、地球温暖化やヒートアイランド現象に対しても、有効な手段であると考えていますので、皆さんのご協力をお願いします。



挙手をして質問に臨む

A 現在、熊谷市の学校給食は、熊谷地区と江南地区がセンター方式で、大里地区と妻沼地区は自校方式で運営されています。熊谷給食センターでは、献立の工夫や地元産の新鮮な食材を取り入れることなどにより、安全で特色のあるおいしい給食を提供できるように努めています。また、センター方式の各学校に調理施設を建設するには多額の費用が必要となります。したがって、現在の熊谷給食センターを最大限に活用しながら、将来の給食施設はどうあるべきかを、時間をかけ、自校給食も含めて様々な角度から、検討していくことが大事であると考えています。

Q 旧熊谷市の給食も各学校で特色あるおいしい給食を作ってもらえたらと思うのですがいかがですか。



議場の風景

Q ニュースで授業数を一割増やすという計画を聞きましたが、熊谷市ではどのように授業数を確保するつもりですか。

A 授業時間数を増やそうとしているのは、学校において「生きる力」の育成をさらに充実させるためです。つまり、基礎的な知識、技能に加えて、これらを活用する力を更に伸ばすためです。熊谷市の小中学校では、現在、二学期制を実施することによって、全ての学校が、国が決められている授業時間数を大きく上回っています。授業時間数が一割増えた場合でも、いろいろな工夫を加えることで、十分に対応できるものと考えています。

このほかにも貴重なご意見をいただきました。これからの市政運営の参考にさせていただきます。なお、詳細については、ホームページに掲載しています。

第2回子ども議会が開催されました

富岡市長前列中央左、松本市議会議長前列中央右と子ども議員



10月20日、熊谷市議会本会議場で、市内の17の中学校から代表として選ばれた男女1人ずつ、計34人が参加して、第2回子ども議会が開催されました。会議は一般質問形式で行われ、普段感じていること、疑問に思っていることについて、どの議員も堂々とした態度で質問を行い、市長はじめ、教育長、担当部長が答弁を行いました。この子ども議会は、次代を担う子どもたちに議会や市政について知ってもらい、また日ごろの子どもたちの目を通した率直な意見を市政に生かすために行われたものです。

広報広聴課 内線206



真剣に答弁のメモをとる

Q 熊谷市では、「あついで！熊谷」をキャッチフレーズに事業を行っていますが、その目的はなんですか。また、その効果は出ていますか。

A 「あついで！熊谷」は、熊谷の夏の暑さが話題となることを活用して、熊谷のまちの良ところや名物、熊谷に住む人たちの熱く燃える心意気を全国に発信することを目的としています。「あついで！熊谷」に関係するイベントや特産品づくり、また、かき氷「雪くま」も好評で、この事業に協力したお店や会場が多くの人たちでにぎわい、熊谷のまちの元気な様子が全国に報道されました。また、旅行先や各地の大会で熊谷を宣伝する「PRキャラバン

隊」や「U18少年熱中大使」の事業を通じて、多くの市民の皆さんが、自分たちの住む熊谷への関心を高め、誇りを持ってPRしてくれたことも大きな成果です。

Q 災害時には学校が避難場所指定されています。実際何人の避難生活を想定していますか。飲料水、食料、医療などはどの程度整っていますか。

A 現在作成中の「熊谷市地域防災計画」では、深谷断層で地震が発生した場合として最大37,000人の避難者を想定しています。飲料水は市内16か所の浄水場、配水場に水道水を備蓄し、非常用の地下水を汲み上げる設備もあります。広域的な給水車の応援体制も整えられています。食料は、市役所、各行政センターなど市内9か所の倉庫に43,700食を備蓄し、埼玉県で備蓄している食料や生活物資と併せて供給できます。民間事業者から速やかな支援が受けられる協定を結ぶことも進めています。また、災害用医薬品を市内の4つの病院に備蓄し、多数の負傷者が発生した場合、県内外の医療機関に協力を求め、重傷者は埼玉県のヘリコプターが専門病院に搬送することになっています。

子ども議員の感想 子ども議会を終えて

- ・普段味わえないような雰囲気、緊張感が体験できました。
- ・はじめに市長が全般的に答弁し、その後、担当の方から細かく答弁する方法はわかりやすかった。
- ・普段はあまり考えなかった熊谷について良いところ、改善してほしいところを考えるととてもよい機会になった。
- ・私たちの質問が一つでも多く実現されると良いと思いました。
- ・メモがとりやすいように答弁するスピードをもっとゆっくりにして欲しかった。



第2回子ども議会議員名簿 (敬称略)

学校名	議員氏名
荒川中学校	堀内 愛里
富士見中学校	森實 円
大原中学校	寺田 桃子
熊谷東中学校	浅沼 真人
玉井中学校	岡田 万葉
大原中学校	三島 圭将
熊谷東中学校	黒澤 翼
玉井中学校	瀬谷 萌
大原中学校	高田 啓人
大原中学校	三木加奈子
大原中学校	杉山 侑也
大原中学校	高橋 由佳
大原中学校	江森 鳴海
大原中学校	廣山 健太
大原中学校	河内 愛美
大原中学校	松葉 駿介
大原中学校	今井 直樹
大原中学校	栗原 美咲
大原中学校	星野 浩慶
大原中学校	掛川 沙葵
大原中学校	滝澤 大地
大原中学校	小島 佑太
大原中学校	戸島 旬菜
大原中学校	小野澤 瞳
大原中学校	中井 亨
大原中学校	蝦名 俊祐
大原中学校	小林 美咲
大原中学校	岩上 大真
大原中学校	坂上 愛美
大原中学校	篠木 崇史
大原中学校	長島 美香
大原中学校	井上 純一
大原中学校	関根 彰子

マニフェストの取組状況を公表します

昨年比14%、11点アップ

～進ちよく率93%、自己評価は81点～

昨年は進ちよく率79%
自己評価70点

市長の政策提言(マニフェスト)について、就任二年目の取組状況をお知らせします。なお、市ホームページにも掲載しましたのでご覧ください。

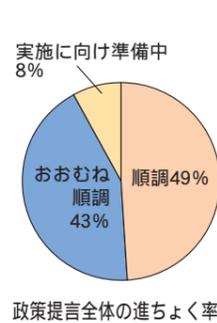
企画課 四内線 215

【概要】

84項目の政策提言の達成度を、実績値や取組状況を踏まえて「順調」(3点)、「おおむね順調」(2点)、「実施に向け準備中」(1点)、「遅れている」(0点)の4段階で評価しました。

一年目は、進ちよく率79%、自己評価70点でした。

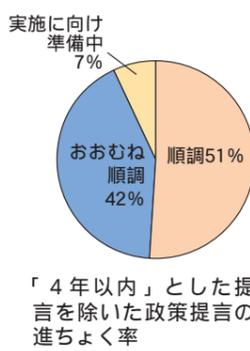
二年目の評価は、実施時期を「4年以内」とした提言を除いた81項目の提言では、「順調」(3点)、「おおむね順調」(2点)に推移しているものは75項目あり、進ちよく率は93%になります。81項目の提言の達成度を点数で表すと243点満点中197点(100点満点)に直した自己評価は81点になります。



【この1年の主な成果】

1 子育て環境・教育環境を充実します

子育て環境の充実を目指して、玉井小学校および太田小学校の余裕教室を利用し、新たに



2 安心なまち・安全なまちを創ります

公立児童クラブの定員は1,165人となり、また、学校図書館を充実するため、夏の暑さの中でも快適に本に親しめるよう、全小・中学校図書館にエアコンを設置するとともに図書館補助員を配置しました。

1 子育て環境・教育環境を充実します

児童クラブの充実
子育て支援優良企業への応援
虐待から児童を守る組織の設置
入院費補助を中学校卒業まで延長
ブックスタート事業の実施
幼稚園と保育所の一体化促進
小・中学校の不登校を4割減
学力向上対策の推進
小・中学校へ扇風機等の設置
小・中学校施設の整備・改造
学校図書館および図書館補助員の充実
立正大学等との連携強化
新熊谷市を語る講師の養成
公民館活動充実への支援
不妊治療支援
学校給食の自校方式について2年以内に結論
生涯学習センター建設のための構想策定

2 安心なまち・安全なまちを創ります

自主防災組織の数は、昨年10月の51組織から本年10月には100組織と倍増し、各組織では、防災訓練を実施しています。また、地域ぐるみの防犯対策を支援するため、警察と連携し、地域ぐる

2 安心なまち・安全なまちを創ります

自主防災組織の拡充
地域ぐるみの防犯対策への支援
悪質な訪問販売からの高齢者保護
多様な防災情報伝達手段の充実
JR熊谷駅周辺に防犯拠点の設置
防犯灯の整備促進
個人情報保護のための認証規格の取得
即時対応型防犯ネットワークの構築

み自主防犯組織の立ち上げおよびその活動を支援した結果、自主防犯組織数は増え、本年9月末には、245団体となっております。

3 すべての人が協働して参画する社会を創ります

雇用の男女平等推進とDV対策の強化
NPO法人、地域ボランティアの倍増
各種審議会における公募委員の義務付け
各種審議会の女性委員を平成20年度までに30%以上に
高齢者の知識を活かす仕組みづくり
まちづくり基本条例の制定
パートナーシップ・マニュアルの策定
協働事業提案制度の創設
パブリックコメントの義務付け
ボランティア活動拠点の確保
新市早期一体感醸成のための自主事業支援

3 すべての人が協働して参画する社会を創ります

新たに市民活動に参加したい方や実施したい方に対するきっかけづくりとして、団塊の世代をはじめNPO法人等市民活動団体の設立支援や、はじめの一歩助成事業を実施しました。また、市政運営の基本方針や、市民と協働でまちづくりを進めるためのルールである熊谷市自治基本条例を制定しました。さらに、ボランティアなどの活動拠点の確保を目指して、市民活動支援センターを平成20年3月に

4 健康・福祉のまちを創ります

4 健康・福祉のまちを創ります

昨年7月の「スポーツ熱中都市宣言」の具現化として、全国大会や県大会に出場した子どもたちに「あついぞ!熊谷」オリジナルTシャツを配布し、熊谷市のPRの一役を担っていただくとともに、熊谷さくらマラソン大会をはじめ各種スポーツ教室等を実施

基本検診、人間ドックの支援拡充
スポーツ熱中宣言都市の推進
介護予防施策のメニューづくり
高齢者虐待防止ネットワークシステムの構築
(仮称)障害者計画の策定
全身性障害者介助人派遣事業の実施
発達障害児に対する支援体制の整備



「あついぞ!熊谷」オリジナルTシャツ

5 環境を大切にすまちを創ります

こども環境教育の拡充
アスベスト対策の緊急実施
屋上緑化・壁面緑化の推進
太陽光発電システムの導入と風力発電の研究
天然ガス車の導入
循環型社会形成推進地域計画の策定
たばこの路上喫煙・ポイ捨て禁止条例の制定



勤労青少年ホームの壁面緑化

5 環境を大切にすまちを創ります

し、市民がスポーツに親しむ機会の充実を図りました。また、発達障害児に対する支援体制の整備を図り、事後指導(フォロー)事業を現在2か所で実施しています。今後さらに個別指導を充実していく予定です。



給食風景

6 ブランド力のある元気を育てます

6 ブランド力のある元気を育てます

地産地消の推進、米・食の安全安心市場の開設支援、個性ある商店街、個店づくりを促進

6 ブランド力のある元気を育てます

地産地消の推進
グライダーフェスタの拡大
熊谷ブランドの創造と全国展開
インターネット上に「熊谷 食の安全安心 市場」開設支援
個性ある商店街、個店づくりを促進
トライアル発注制度の新設
企業立地を促進するための産業振興条例の制定
のんびり熊谷、ゆったり観光を推進

7 生活しやすい都市機能の充実したまちを育てます

JR熊谷駅にエレベータを設置する工事を実施しています。また、平成19年度および20年度の2か年で、熊谷市景観計画を策定します。

7 生活しやすい都市機能の充実したまちを育てます

テクノグリーンセンターの整備
JR熊谷駅周辺施設整備
都市計画道路の早期供用開始
生活道路の整備
幹線第3号の整備
安心でおいしい水の安定供給
田園地区のまちづくりの推進
JR熊谷駅にエレベータの設置
旧市町の動脈となる道路網整備
総合的な景観形成計画の策定および実施
蚕業試験場跡地を公園等に整備
「彩の国創造の森プラン」地域の幹線道路整備

8 自立した地方自治のため行政改革を進めます

客観的な人事管理制度を推進するために、課長職昇任試験を実施するとともに昇任試験

8 自立した地方自治のため行政改革を進めます

新ハートフル・ミーティングの実施
4年間で20億円の人件費の削減
総合振興計画の策定
市長交際費の常時公開
4年間で市有施設の20か所以上を民間管理等へ
重複施設の見直しと徹底活用
市民満足度調査の実施
入札適正化委員会を設置
電子入札の導入
客観的な人事管理制度を推進
コンビニで市税納付可能に

「凡例」
.....「順調」
.....「おおむね順調」
.....「実施に向け準備中」
.....「事業を拡充・強化します」
.....「事業を継続します」
.....「すぐにはじめます」
.....「1年以内にはじめます」
.....「2年以内にはじめます」

まちを愛し、地域を愛し、人を愛する心をめざして

人権ポスター



10月20日、第5回大里郡市人権フェスティバルが、深谷市花園文化会館「アドニス」で開催され、各市町の小学校5・6年生の特選作品(ポスター・標語)の表彰が行われました。その中の本市小学生の特選作品を紹介します。

人権標語

認め合おう	人の数だけある個性	大麻生小学校 5年	植木俊宏さん
さしのべよう	心に届く やさしい手	玉井小学校 5年	富田真人さん
差別をね	やめる心と とめる勇氣	吉見小学校 5年	青木拓海さん
さしのべた	あなたの手のひら 勇氣のあかし	長井小学校 5年	須田晴香さん
そのいじめ	あなた自分に できますか	妻沼南小学校 5年	橋本拓哉さん

人権ポスター・標語作品展

とき 12月3日(月)～7日(金)
ところ 市役所1階ホール南

ハートフルセミナー(人権問題指導者養成講座)

ところ 熊谷文化創造館さくらめいと月のホール
申込み 電話で人権政策課または社会教育課へ。

とき	テーマ	講師およびオープニングアトラクション
平成20年 1/16(水) 13:30～15:30	同和問題「一人ひとりの人権を尊重するために - 同和問題をもとに考える -」	横島 章氏(宇都宮大学名誉教授) *オープニング 一筆会(琴の演奏)
1/23(水) 13:30～15:30	女性の人権「自分らしさを輝きにするために - 美しく生きる -」	原田壽子氏(立正大学社会学部教授) *オープニング ハートフルミュージック(ヴィオリラの演奏)
1/30(水) 13:30～15:30	子どもの人権「子どもの人権について - 大人と子どものコミュニケーションの観点から -」	澤崎俊之氏(埼玉大学教育学部教授) *オープニング ゼンガークライス(コーラス)

人権政策課 ☎内線356 社会教育課 ☎内線388

第59回人権週間行事

とき 12月8日(土)
ところ 浦和コミュニティセンター(多目的ホール)
内容
・第1部 13時～14時30分
平成19年度全国中学生人権作文コンテスト埼玉県大会表彰式

・第2部 14時50分～16時30分
講演会 講師 中村メイコ氏
演題「私の生き方」
定員 先着300人
入場料 無料
申込み 当日会場で受付
さいたま地方法務局人権擁護課
☎048-863-2211

12月10日は「人権デー」、12月4日～10日は「人権尊重社会をめざす県民運動強調週間」です。12月10日～16日は「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です。啓発週間に機に拉致問題に対する関心を一層高めていただくようお願いします。

文化功労者の表彰

熊谷市教育委員会表彰規程に基づき、熊谷市文化功労者の表彰式が大里生涯学習センター「あすねっと」で行われました。文化功労者は、神沼廣司氏、出口喜平氏、矢野美登里氏です。また、教育関係職員74人も表彰されました。

社会教育課 ☎内線389



かぬまひろし
神沼廣司氏
(73歳) 星川

氏は、昭和27年に18歳の若さで熊谷市卓球連盟の理事に就任し、埼玉国体の選手育成のため市内の中学校で技術指導を行うなど、卓球の普及振興に貢献しました。

昭和48年には、熊谷市体育指導委員に選任されるとともに、熊谷市商店街ソフトボール連盟、ママさん卓球連盟を設立し、本市にスポーツ愛好の輪を広げ、コミュニティづくりに大きく寄与しました。

昭和61年には、個々に活動していた熊谷市商店街ソフトボール連盟、現代舞踊、ママさん卓球連盟、民踊、ソシアルダンス、ラジオ体操、ゲートボール等の団体を全市的にレクリエーション協会としてまとめ上げ、自ら会長に就任し、11部門81団体、約1,800名の会員が所属をする一大組織に育て上げました。とりわけ、氏が平成8年に設立した「熊谷市ターゲットバードゴルフ協会」には、700名を超える会員を擁するまでに情熱を傾けるなど、市民参加型の生涯スポーツ、レクリエーションの普及振興に惜しみない力を発揮しています。

さらには、ボーイスカウト活動や青少年相談員活動等を実践し、青少年健全育成活動においても多大なる功績を残しています。

このように、多くの市民に生きがいを与えるとともに、市民の健康づくり、地域におけるコミュニティづくりに大きく貢献した功績は誠に顕著であります。



でぐちきへい
出口喜平氏
(81歳) 弥藤吾

氏は、東京美術学校油画科において、梅原龍三郎・安井曾太郎に師事し、画業を研鑽しました。

卒業後は、昭和26年より埼玉県立熊谷高等学校で、その後は、立正大学、埼玉県立妻沼高等学校において美術教育に尽力しました。

昭和34年からは、都内を中心に個展を開催し、今年度で25回を数えます。

昭和51年にはパリのグラン・ショミエール美術学校にて制作を行い、翌年の昭和52年に一期会展に出品すると、その芸術性が認められ、会員に推挙されました。以降、昭和53年に東京都知事賞、昭和56年に内閣総理大臣賞を受賞し、昭和62年から6年間にわたり一期会の理事長を務めるなど、中央画壇においても活躍しています。

また、旧妻沼町において、絵画団体・青美会の設立に寄与する一方、自ら持てる美術の感性を通じて、芸術を愛する多くの地域の人々を指導育成し、美術の発展に貢献しました。

さらに、旧町での活動は、絵画の分野に留まらず、ショパン国際ピアノ・コンクールin ASIAの審査員を務める河合優子氏を招き、「第九を歌う会」などの音楽会の開催に尽力するほか、社会教育委員、文化連合会長、文化祭実行委員長を歴任し、展示館建設にも奔走するなど、幅広い分野で活動し、精力的に文化振興に努めました。

このように、本市の芸術文化の振興・充実に大きく貢献した功績は誠に顕著であります。



やのみどり
矢野美登里氏
(本名：志村すみ)
(77歳) 柿沼

氏は、4歳から日本舞踊、16歳からはクラシックバレエを修め、埼玉県立熊谷高等女学校卒業後すぐに買谷八百子バレエ研究所に入所し、翌年からは団員となるや、10年間にわたり、中心的バレリーナとして国内各地の舞台上で活躍しました。

昭和32年、本市に矢野美登里バレエ研究会を設立すると、昭和44年には上尾教室を開設、さらに読売日本テレビ文化センター浦和においてバレエ講師に就任し、現在も継続して指導をしています。

昭和45年、「ヨーロッパ芸術舞踊視察団」への参加を機に、昭和50年から62年まで、毎年、「ソビエトバレエ研修」に参加し、帰国後、その習得したバレエ技術をもとに「日・ソ バレエ講習会」を開催するなど、多くの優秀な舞踊家の育成に尽力し、バレエ界の発展に寄与しました。

また、埼玉県舞踊協会、社団法人日本バレエ協会埼玉ブロックや関東支部の結成に参画するとともに、各団体で要職を歴任し、本市のみならず、埼玉県や関東地区においてもバレエ文化の普及発展に大きく寄与しています。

さらに、現在も現役で舞台上に立ち、市民にバレエの楽しさと美しさを表現し続けています。

このように、本市におけるバレエの第一人者として、バレエ文化の普及・発展に大きく貢献した功績は誠に顕著であります。